

第42回 うつのみやこども賞だより

令和7(2025)年度 3回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番友達にすすめたい本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『きさらぎさんちは今日もお天気』

古都 こいと／作 酒井 以／絵 (Gakken)

～読んだ本の感想より～



令和7年8月 3日

- いろいろな章があり、どれも面白かったが、そのなかでも、ゆうえんちに行く章がいちばんよかった。おじいさんや、他の困っている人を助ける父のすがたに感動した。
- あまり知らなかったツボやお灸を通して様々な悩みを解決していくところがおもしろかったです。
- 『UFOを見た!』というお話のとき「なんだか本当に冒険しているみたいだな」と楽しい気持ちになった。
- 血がつながっていない父と子でも、おたがいにおもい合えば、家族になるのだと思いました。
- お話の所どころに出てくるつぼの説明を読むのが楽しかったです。また、青葉くんとお父さんのかんけいせいもおもしろかったです。
- 物語が進んでいくにつれて、きさらぎさんちのなぞもわかっていってとっても意味が深くてももしろい作品だなと思いました。

『わたしと話したくないあの子』

朝比奈 蓉子／作 双森 文／絵 (ポプラ社)

- わかなとまた仲よくできてよかった。でも、わかなが福岡に引っこすとなつてびっくりした。
- 「わたしたちの立場が逆だったら友達をやめるの?」のセリフに感動した。わかなの事情を知って心の底からきらってるわけじゃないんだと思った。
- 話したいけど話せない早紀の気持ちがかわいそうでした。
- わかなに「できたら、わたしにかかわらないでほしい」と言われても友達を大切にできることに感動しました。
- 親友としばらく会えなくなるなんて、わたしだったらそもそも無理だし、会えるようになって理由もわからないまま急に話さなくなるなんて、さきと同じですって考えて眠れなくなりそうだなと共感しました。

『フルイコいねが』

安東 みきえ／著 佐藤 野々子／装画 (講談)

- 読んでいるうちにアキトはあまり悪い奴じゃないと思った。
- 最初は小太郎たちと同じでアキトってやばいやつだと思いました。でも、アキトは亡くなったじっちゃんにあやまりたいという気持ちでしてしまっていたという、そんな事実がわかり、いいやつだな、すてきな子だなと思い感動しました。
- アキトのしゅみについて、自分だったら聞けないから、勇気があるなと思った。
- 「あきと」は気持ちが理解できないかわった子だと思っていましたが、「あきと」のかこをしるにつれ、じょじょに心をひらいていく「みみ」との友情が良かったです。

『あの空にとどけ』

熊谷 千世子／作 かない／絵 (文研出版)

- あやねの弟のあおがいなくなって、たいこ(太鼓)を通して自分に自信がついていくあやねがよかった。
- 自分のあやまちをずーっと悔やんでいるところが私に似ているから重なって見えた。
- 「ぎょろりさん」てなんだろうと思ったけれど、神さまだとわかってびっくりした。あおがたいこを好きだった理由も、「ぎょろりさん」が笑っていたことも解決してよかった。
- 彩音がたいこクラブに入って、くじけそうになった時にでてきた逢音の言葉が心に残った。蒼も逢音もどっちもとてもやさしい子だなと思った。